



TITLE:

物性基礎論II: 解けるモデル(サブゼミ, 1987年度物性若手夏の学校報告)

AUTHOR(S):

伊藤, 伸泰

---

CITATION:

伊藤, 伸泰. 物性基礎論II: 解けるモデル(サブゼミ, 1987年度物性若手夏の学校報告). 物性研究 1988, 49(5): 502-503

ISSUE DATE:

1988-02-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/92917>

RIGHT:

1987年度物性若手夏の学校報告

話いただきました。又、物性研の赤沢氏には超低速イオン吸着の実験の発表を、阪大の大辻氏にはW(100)の計算機実験の発表をしていただきました。

(世話人 垣谷公徳)

## サブゼミ 誘電体

最近、誘電体の分野でも低温での物性が注目を集めるようになってきました。中でも混晶系のダイポールガラスには、国内、外でいくつものグループが研究に携わっています。また誘電体の研究者によるペロブスカイト構造を持つセラミックスの高温超伝導体の発見により、低温での誘電体の物性が見直されています。

そこで今年は、ダイポールガラス～低温での誘電体の物性～というテーマでサブゼミを行いました。

まず初日には、講師の高重先生にアモルファス強誘電体、quantum ferroなどの低温での誘電体の物性についてのレビュー的なお話、それにチューリッヒでのMüllerらとの高温超伝導体の研究について、色々な体験談をまじえてお話していただきました。

2日目には、発表者の御二人にそれぞれ混晶系のダイポールガラスについてのお話をしていただき、出席者全員で議論がなされました。

今年は出席者が少し少なめでしたが、たいへん有意義な時間を過ごすことができたと思います。

最後にこの場をかりて、たいへんお忙しい中、講演を引き受けて頂いた講師、発表者の方々にお礼申し上げます。

(文責 坂田英明)

## サブゼミ 「物性基礎論Ⅱ」 「解けるモデル」

阿久津泰弘氏(神奈川大物理)に講師をお願いしました。2次元格子模型の厳密解について、初歩から最近の発展まで講義して頂きました。発表者は、世話人が予めお願いしていた井上真

氏（東大理）と、飛び入り参加の出口哲夫氏（東大教養）の2人でした。井上氏は「量子スピン系も面白いよ」と題して、この両者の関係と、組み紐群について話されました。講義、発表いずれも大変興味深い話で、しかも分り易く、この分野に関心をもっていた参加者は大変楽しめたことと思います。特に、紐を操りながら闊達に話す出口氏の発表は印象的でした。最後に、忙しいなか時間を割いてくださった阿久津氏と発表者両氏とに感謝の意を表し、来年の世話人にバトンを手渡すことにします。

（文責 伊藤伸泰）

## サブゼミ 格子欠陥

打ちっぱなしのコンクリートと青いビニールシート、ほのかに香るのはぬかみその臭いか。なんと格子欠陥サブゼミはスキーの乾燥室で行なわれることになっていたのだった。いったいこんな所に人が集まるのだろうか？と不安を抱きつつも迎える本番。

発表をお願いしたのは九大応力研の榎井浩一<sup>マキイ</sup>さんです。今年の春の学会で発表をお願いしました。「BCC結晶中のらせん転移と点欠陥の相互作用」という題です。

講師をお願いしたのは東北大金研の石岡俊也先生です。「転位のダイナミクス」という題です。

人の入りは、まあ大入り満員といってもよいでしょう。30ぐらいの席が全てうまりましたから。ほっと一息。時間中は私が一人で質問しまくっていたようで、今ひとつ議論に盛り上がりが欠けていたようです。残念。

その夜のコンパで次の世話人にタッチして無事肩の荷を降ろしました。とにかく石岡先生、榎井さん、九大の皆さんごくろう様でした。またお会いしましょう。

（文責 池淵 立）

## サブゼミ 高 分 子

参加者は、20～14名と少数でしたので、くつろいだ雰囲気で行進しました。講義形式でお